

第 76 号



2024 年度 秋号

土木技術者女性の会 とは

<団体名>

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers

<会の生い立ち>

土木学会誌(1982年9月号)に掲載された「女性土木技術者の座談会」がきっかけで1983年1月に発足しました。座談会の席で、「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような会を…」ということになり、同誌で呼びかけ、約30名でスタートしました。

創立以来、任意団体として活動してまいりましたが、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人土木技術者女性の会として新たに発足しました。

<会の目的>

土木学会誌の座談会をきっかけにしていますが、女性土木技術者特有の問題をきめ細かく取り上げ対応していくために、独立した団体として活動しています。

女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次のような目的を掲げています。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

<倫理規定>

当会では次のような倫理規定を定めています。

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規定を遵守するものとする。

1. 会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする
2. 会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する
3. 会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない

<会誌「輪(りん)」について>

1983年に開催された第1回総会にて、会誌の名前についても話し合いが行われています。

「輪」の文字は、「友達の輪」という発想より早々に決まりました。

そして、「りん」という言葉の響きの心地よさと会員同士のつながりを大事にしたいという思いを込めて名付けられました。

(1983年 第一回総会議事録・参加者証言抜粋)

目 次

01 巻頭言：南 朋恵 ～私にとっての土木技術者女性の会～

02 特集★一般社団法人 土木技術者女性の会

第12回総会および総会関連行事 開催報告

03 | 第12回総会

05 | 総会関連行事「砂子炭鉱 三笠露天坑の見学」

07 | 総会関連行事「意見交換会」

08 | 参加者の感想

都松 佳美/渡守 かおり/河添 典子/水野 希里

13 新任運営委員の紹介

16 運営委員 退任によせて

21 一般社団法人 土木技術者女性の会 組織図 2024

22 「40周年記念誌」ができるまで

27 『第7回リカジョ育成賞 準グランプリ』受賞

31 『Civil Engineer への階段』第3回

～松永昭吾サポーターとの交流会～マツさんから我々女性技術者への熱いメッセージ!

- メディア掲載
- サポーターおよび新規会員募集
- 寄附制度のご案内
- 編集後記

私にとっての土木技術者女性の会

会長 南 朋恵



6月の総会より第8代会長に就任しました中部支部の南です。この総会では、7名の理事のうち約半数の4名が交代しました。新たな体制で、今後も会員みなさんの「よりどころ」となるような活動を継続していきたいと考えています。これからどうぞよろしくお願いします。

さて、みなさんは何をきっかけに当会に入会されましたか？

私が当会へ入会したのは、2004年ごろ（だった）と記憶しています。もう20年近く前になります。当時、担当していた現場へ現地調査のため来られた研究所の方から第4代会長の佐藤さんを紹介いただいたことがきっかけです。

私は地元福井の大学を卒業して、地元の建設会社に5年弱勤務しましたが、その建設会社では初めて採用された女性の土木職員でした。施工管理の仕事は体力的にも大変ですが、やりがいも感じていましたし楽しかったのですが、今後、仕事を続けながら結婚や子育てできるのか漠然とした不安がありました。そのころは、多くの女性が結婚や出産を機に退職している時代です。残念ながら、将来のことを相談できる先輩は私の周辺にはいませんでした。

そこで、土木の仕事を続けられることを念頭に転職し、国交省北海道開発局に入局しました。北海道開発局の土木職員は入局時に部門（道路、河川、港湾、農業など）が決められます。私は「道路」の背番号が付きました。道路部門の同期は20名程度いましたが、女性は私一人で

した。北海道という全く知らない土地で、受注者側から発注者側への転職とはいえ、初めての環境に慣れてないこともあり、今思うと女性の先輩との繋がりを求めているのかもしれない。そんな時、佐藤さんと知り合い、当会へ入会し、各地で活躍する会員と総会で交流できたことで、ようやく女性技術者の先輩に出会えた気がします。

とはいえ、入会した当時は北海道内の地方都市に勤務していましたので、会の活動にはなかなか参加できませんでした。その後札幌に転勤になり、現場見学会や勉強会など、少しずつ会の活動に参加できる機会が増えました。

2013年から3年間は関東にある研究所に異動になったこともあり、会の活動はお休みするような状態になりましたが、2016年には北海道開発局に異動したことを機に、北海道支部長に就任しました。2020年からは福井県へ転職したことで中部支部へ転属、同年6月から副会長に、2024年6月から会長に就任し、現在に至ります。

土木技術者女性の会の活動は、異動による転勤や転職で住所が変わっても、支部が変わって続けることができますし、総会では様々な会員のみなさんと変わらず交流できる機会もあります。きっかけはどうあれ、続け方はどうあれ、会員のライフイベントに合わせて続けられる会の活動にしていきたいと思っています。そして、このバトンを若い会員のみなさんに手渡していければ、と考えています。

一般社団法人 土木技術者女性の会 第12回総会および総会関連行事

開 催 報 告

日程：2024年6月21日(金)・22日(土) 開催担当：北海道支部

第12回総会 p.3

日時：2024年6月22日(土) 10:00~12:00

場所：札幌エルプラザ 大研修室

総会関連行事 p.5

砂子炭鉱 三笠露天坑 見学会

日時：2023年6月21日(金) 13:00~17:00

意見交換会 p.7

日時：2023年6月21日(金) 19:00~21:00

場所：北区北10条西2丁目 オステリアエストエストエスト

参加者の感想 p.8



第12回総会

日時：2024年6月22日(土) 10:00~12:00

場所：札幌エルプラザ 大研修室

会場参加の正会員 42名(うち委任状1名)

電磁的議決権行使 132名

(議決権のある会員数 374名の10分の1以上で成立)

報告者：福島香菜子(北海道支部)

2024年6月22日(土)、(一社)土木技術者女性の会 第12回総会が札幌市にて行われました。2020年に予定されていた総会が、コロナ拡大防止のためWEB開催のみとなりました。そのため北海道では実に9年ぶりの対面による総会となりました。昨年に続き対面参加に加え、WEB配信も行われました。

はじめに牛山育子会長より、総会参加や日頃の活動へのねぎらいの言葉がありました。

次いで、選出された議長による総会成立宣言、本総会の議案は出席者(電磁的議決権行使者および委任状提出者を含む)の過半数の賛成で成立する普通決議であることが説明されました。

決議事項として次の6つにつき、担当の理事から説明があり、それぞれ正会員の過半数の賛成で可決されました。

第1号議案：理事選任の件

第2号議案：2023年度計算書類の承認の件

第3号議案：2024年度事業計画(案)の承認の件

第4号議案：2024年度収支予算(案)の承認の件

第5号議案：一般規則改定の件

第6号議案：倫理規則改定の件

次に報告事項4つに関し理事より説明がありました。

第1号報告：2023年度事業報告および計算書類報告の件

第2号報告：2023年度監査報告の件

第3号報告：運営委員の任命報告の件

第4号報告：顧問の選任報告の件

続いて、企画広報局長、各支部長およびWGリーダーより2023年度の活動報告や2024年度の活動計画について発表がありました。イベントの開催もコロナ以前の水準に戻り、活発に行われている様子がうかがえました。

退任する理事の方々および新任理事の方々より挨拶があり、大変ながらも充実していた様子が伝わりました。

牛山会長からは、土木学会名誉会員となった当会会員で会の創設メンバーでもある天野玲子さんの紹介もありました。

さらに、新任理事から退任する皆さんへの



【総会の様子】



サプライズなプレゼントが！会のマークやマスコットキャラクター「ブタさん」をプリントしたマグカップです。会場は和やかな雰囲気に入れ、WEB 参加者も含め集合写真を撮ったのち、終了予定時刻の 12:00 までに終了しました。



【会場にて記念撮影】

次回 2025 年度の総会は東日本支部での開催となります。再びお元気でお会いできるよう、日々“ご安全に”！



【WEB 参加のみなさま】

～議事次第～

開会

I. はじめに

1. 会長挨拶（牛山育子）
2. 議長選出（北海道支部 井上 涼子）
3. 総会成立の宣言

II. 議案審議

- 第1号議案 2023 年度計算書類
- 第2号議案 2024 年度事業計画（案）
- 第3号議案 2024 年度収支予算（案）
- 第4号議案 監事選任

III. 報告事項

- 第1号報告 2023 年度事業報告および計算書類報告
- 第2号報告 2023 年度監査報告
- 第3号報告 運営委員の任命（案）

2025 年度総会開催の担当支部：東日本支部

2026 年度総会開催の担当支部：西日本支部

閉会



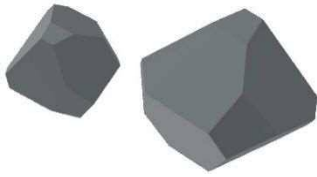
【お土産を前に歓談です】



【たくさんのお土産、ありがとう♪】

総会関連行事

「砂子炭鉱 三笠露天坑の見学」



報告者: 福島香菜子 (北海道支部)

～ バスにて移動、CPD 勉強会も開催 ～

新千歳空港の一階を待ち合わせ場所としたことで、「迷わず到着できた」との声を頂きました。無事に全員集合し、時計台バスさんへ乗り込みワイワイと出発～！ 半導体工場ラピダスの建設現場を右手に見つつ、道の駅「マオイの丘」へ。地場産イチゴのひんやりスイーツが美味しく、地元野菜も評判の人気の道の駅なんです。

走行した「道央圏連絡道路(国道 337 号)」は、新千歳空港から長沼町～南幌町～江別市～石狩市を通り小樽市へと続く幹線。北海道支部の中山真貴子さんから、この地域では国(北海道開発局)による工事で農地が大規模化され一区画あたり 2ha(2000m²)あること、北海道の大スター☆大泉洋さん主演の映画「ぶどうのなみだ」ロケ地となった宝水ワイナリーがあることなど多くの解説がありました。さすがお詳しい！

そして車中では北海道など寒冷地に特有の土壌「泥炭」サンプルが回覧されました。低温のため落ち葉などの分解が完全には進まず、年に数ミリペースで約 1 万 2 千年にわたり堆積してきたものです。北海道では広範囲に分布しておりますが、水はけが悪く橋や道路建設の際には対策が必要です。

この他、普段は水田ですが氾濫時には水を受け入れる「北村遊水地(石狩川下流、岩見沢市)」についても紹介がありました。泥炭および遊水地については北海道支部の佐藤厚子さんからの解説でした。



【三笠市民会館での座学】

～ いよいよ砂子炭鉱 三笠露天坑へ ～

1 時間余りで三笠市民会館へ到着。今回の見学でお世話になる砂子組様がお出迎えくださり、まずは座学にて炭鉱の概要を伺いました。

鉱山の採掘権をはじめ、数多くの許認可が必要なのだそうです。ボーリング調査で石炭層を確認し、露天掘りにより採掘していきます。炭鉱というと狭い坑道を掘り進むイメージでしたが、露天掘りも行われていたのですね。

採掘した石炭は北海道電力へ卸していますが、品質(カロリー、硫黄分など)が基準を満たさないと納めることができません。

採掘を完了した鉱区の埋め戻しから緑化まで完了した様子も写真で紹介され、いよいよ見学への期待が高まります。

再びバスで移動し、炭鉱事務所から先は砂子組様の用意して下さった車に分乗し、いよいよ炭鉱へ…！ 15 分ほどで、巨大すぎる地層の壁が見えてきました。余りのスケールに興奮する一同。稼働しているバックホウや車両も超・超巨大。しかし意外と小回りがきくのです！ この巨大壁は約 220 メートルもあり、火薬による発破(一日 200 回!)も併用して掘り進めてきたそうです。ちなみにスマホは圏外です。



【途中の展望スペースにて。数十メートル下が石炭層】



【写真で伝えきれないスケール感です】

さらに数十メートル下にある石炭層まで連れて行っていただき、石炭のかげらを手に取ってみたり、バックホウと写真を撮ったり。石炭の中からは琥珀がよく見つかるそうで、ラッキーな人はゲットしていました。終わりに全員で記念撮影をしました。



【バケット内に余裕で入れます♪】

再び車に分乗しバスまで送り届けて頂いた所で、石炭層で撮っていただいた集合写真、そして小さな石炭を参加者全員にプレゼントして下さい感激。さっきの写真がもうできている?! とビックリです。

そして予定時間より 30 分も押していたことも判明(笑)。質問もたくさん出たし、満喫しちゃったので仕方ないですね～。

それでもバス運転手さんの機転で、空いている PA でのトイレ休憩にしたため、予定通りの 18 時に札幌駅到着となりました。

天候にも恵まれ、何より時計台バス様、砂子組様のおかげで、大満足の見学会となりました。本当にありがとうございました。



【泥炭層にて記念撮影】

意見交換会

日時：2023年6月21日(金) 19:00~21:00

場所：北区北10条西2丁目 オステリアエストエストエスト

報告者：福島香菜子(北海道支部)



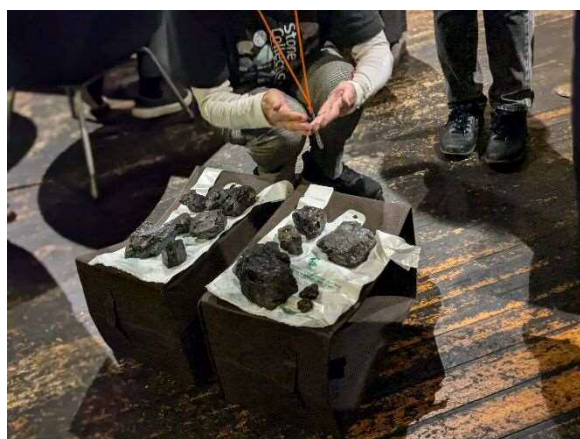
炭鉱の見学ののち、札幌駅にほど近いイタリアン「オステリアエストエストエスト」さんにて意見交換会が開かれました。受付を済ませるとクジをもらい、A~D いずれかのテーブルに着席します。クジには今の季節咲いている花の絵が描かれていました。

ドリンクのオーダーののち、司会の北海道支部の井上さんが音頭をとり、乾杯~! 積もる話や近況について、話題は尽きることなく。コロナ禍を経ての再会という人もいたようで、あっという間に時間が過ぎていきました。

北海道支部の石井支部長から、行事参加へのお礼と明日の総会も頑張りましょう! と締めくくられ、そしてお開きとなりました。



【石井支部長よりあいさつ】

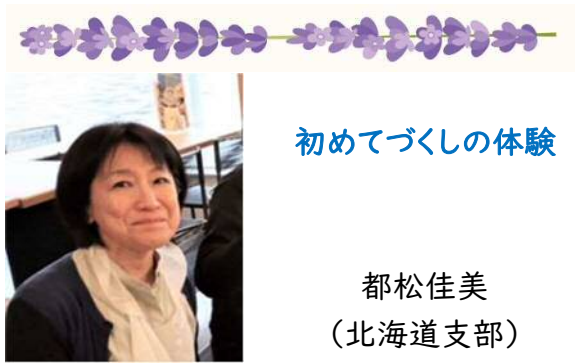


【どれにしようかな〜?】

宴の最中、砂子炭鉱で頂いた「石炭塊と琥珀」をかけたジャンケン大会を実施しました。鉱物に情熱を注ぐ中部支部の藤代さんをはじめ、みんなお気に入りの一品を選んでいました。

その様子をテラス席にいた別グループのお客さんが見ていらしたようで、私達が外へ出ると石炭を見て「それは何ですか?」と質問をしてきました。「三笠市の炭鉱へ見学に行き、頂いたものなんです」と説明すると「我々も今日、三笠におりました」とおっしゃるではないですか!

聞けば、大学の先生の集まりで打上げをしていたとお話でした。世間は狭い、を実感した出来事でした。



初めてづくしの体験

都松佳美
(北海道支部)

今年の5月で家業の測量会社を継いで、あっという間に丸3年となり、以前勤めていた会社の女性技術者からこの会についてお誘いを受けておりましたが、当時は土木技術者女性の会ということで自分にはおこがましく、腰が引けるという感じてありました。

しかし、今の自分の立場で何かをプラスになることを積極的に取り入れてみようという気持ちが湧いてきて、10年ほどの歳月を経て、今年の2月に入会することになりました。

1. 現場見学会

入会したこの年に北海道での総会開催と、関連行事である現場見学会の場所が地元岩見沢の隣町、三笠市にある砂子組の露天坑であることにとっても縁を感じました。

というのもこの場所は弊社が平成の時代から幾度か測量に関わっていた場所であったからです。

石炭を採掘するための山林が、国有林であるため保安林解除の申請が必要となりますが、この申請をするために採掘する範囲の測量を行ったといういきさつがあったのです。

最初に山肌が現れたとき、さながらアメリカのグランドキャニオンみたいと思いました。(行ったことはありませんが…)

測量の担当者から、過酷な現場だったということを聞かされていたので、話しでは聞いていたものの現場で初めて目にした私は、驚愕と感動と色々なものが入り混じり、何とも言えない衝撃が走りました。

説明をしていただいた砂子組の渡邊さんに「この場所うちで測量したんですか？」と半信半疑で聞きました。「そうですよ」と返事が返ってきてジーンと胸が熱くなり感動。

私の頭の中は三笠市民会館での講義、映像内のBGM 中島みゆきさんの「地上の星」がリフレインしていました。

以下 知識の薄い私が「へえー」と「ほうー」とつぶやき、感心したことを挙げます。

(1) 岩盤下60センチほどの石炭層と、僅か10センチの薄さでも採掘すること。

(2) 大型ショベルのオペレーターさんは御年75歳と聞いて感動、若々しく背筋がシュツとしていた。



【露天坑採掘場のようす】

(3) キャリードンプのタイヤの径が 2m 超で 1 本 100 万円、2 年で消耗する。

(4) 真冬でも除雪をして採掘をしていること。(この辺は豪雪地帯なので想像を絶します)

(5) 採掘を終了すると盛り土、植林をして元の山林に復元すること(計り知れない手間と費用? をかけて自然保護をしていること)。

残念なことに石炭を燃料とする砂川、奈井江の火力発電所が 2027 年 3 月をもって廃止するとのことで、稼働している間に見学することはわずかな期間しかないかもしれません。



【キャリードンプのタイヤ】

2. 新たなエネルギー事業と三笠市のとりくみ

三笠市では H-UCG という石炭を地下ガス化し、CO₂ の発生を実質 0 となるように、水素を製造する新たなエネルギーの研究事業に取り組んでいるようです。

室蘭工業大学などが事業に関わっており、地下ガス化の実験を砂子組の露天坑で実施しているとのことでした。

毎年、三笠市民会館でエネルギー活用フォーラムを開催しており、今年の 3 月に初めて参加しましたが、実現化すればすごいことになるなと感じました。

三笠市はジオパークに認定されているため市の商工観光課でジオツアーというのを実施して

いるようです。炭鉱遺産や化石など、今回の見学会の露天坑のツアーの中にはあるようですので興味のある方はチェックしてみるとよいと思います。

観光の一環として、また子供の自由研究や、大人の社会見学としても楽しむことができ、今回の参加で、個人的にこの分野に興味を持つことができました。

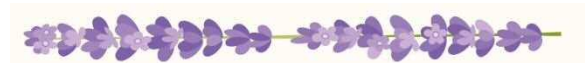
3. 最後に

このような経験はこの会に参加したからこそ得たことであり、そして気づきを得ることができました。

早々会社の朝礼で、この会に参加した概要を報告し、技術職員以外にも知ってもらいたく、写真付きコメントを添えて見学会の様子を回覧させていただきました。

現場見学会、総会、懇親会とすべて初参加でしたが、全国の女性技術者と交流したことで刺激をいただき、さまざまな背景のなか、皆様の頑張る姿が伝わり、自分自身への励みとなったことには間違いありません。

この場を借りて深く感謝を申し上げたいと思います。



総会関連行事に参加して

渡守 かおり
(北海道支部)

1. 見学会

集合場所の千歳空港を出発し、休憩で道の駅(マオイの丘)に到着。それと同時にあちらこちらから、「ソフト!」という声。バニラ・チョコをはじめ、いちごやトマト、きなこなどなどソフトの種類がたくさん。優柔不断な私は迷いに迷ってきなこを食べ、気になるトマトは、一口いただい

たのですが、本当にトマトそのもので、驚きと感動でした。道の駅をあとにし、三笠市に到着。見学前に砂子組さんから、炭鉱の歴史や露天掘りの工程・ICT 施工について、これぞ北海道というイメージの音楽とともに、説明をしていただき、楽しく学ぶことができました。

そして、いざ、数台の車に分かれ現場見学へ。

除雪車のオペレーターになりたかった私にとって、巨大な重機やダンプが作業している光景は、まさに夢の国でした。大きなバケットやタイヤの前で、自然とみんな笑顔での写真撮影。そんな私も、現地での写真を夫や友人に見せると、「本当に好きなんだね。過去一の笑顔だよ」と言われてしまうくらい重機愛に溢れていたようです。現場事務所に戻ると、写真が出来てます！のシステムはまさに夢の国のシステム。(しかもプレゼントだなんて、驚きと感謝です。砂子組さん、本当にありがとうございました。)

2. 懇親会

会員としての在籍は長いほうなのですが、あまり活動に参加できていなかったため、総会や懇親会に参加するのは初めてでした。たくさんの方と交流できたことは、楽しく本当に良い時間でした。



【大型ダンプのタイヤを背に過去一の笑顔】

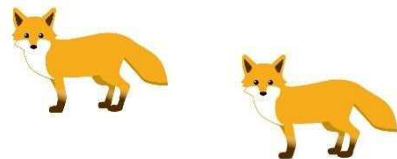
懇親会では、見学会でプレゼントされた琥珀のじゃんけん争奪戦が繰り広げられ、運のいいことに私も琥珀をゲットすることができました。帰

り際には、お店のテラス席にいた紳士たちから、「何の石なのか？」と尋ねられるという一コマも。

確かに、はたから見れば、石に群がる女性達は怪しい集団に見えたのかもしれませんが……。それとも、もしかして、あの黒い石は石炭？とも噂されていたそうです。というのも、一人は大学教授で同日に三笠にいらしたとのこと。同席されていた方は、電力会社の方で、これまた本当に不思議なめぐりあわせだなと感じました。

3. 最後に

現場見学会での集合写真は、最高の宝物となりました。ときどき眺めては、にんまりしている私です。みなさん、それぞれ極めているからなのか、キラキラしていて、そんな多くの人に出会うことができ、刺激とパワーをもらいました。また、会えることを楽しみに、がんばりたいと思います。



初めて集合総会に
参加して

河添 典子
(東日本支部)

1. はじめに

2018 年度に入会以降、残念ながらタイミングが合わず、総会への参加が十分にはできていませんでした。

しかしながら、今年度は未踏の地であった『北海道』での開催、かつ次年度開催が『東日本支部』と伺い、未経験のままではいけないと思い立ち、思い切ってリアルでの参加に至りました。当日は、愛知県の自治体のプレゼンが入ってしまい、まさかの中部国際空港からの札幌入りで意見交換会からの参加となりました。

2. 関連行事【意見交換会】にて

意見交換会では、コロナ禍で対面ではなかなかお会いできなかった皆様やキャリアセミ（東日本支部）で講師を引き受けていただいた方々に、直接お目に掛かることができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。

現場見学のお話を伺い、行けなくて本当に残念でしたが、炭鉱で採取された琥珀のじゃんけん争奪戦に参加し、私も小さいお土産をゲットさせていただきました（会社の机上に飾ってます）。



【琥珀争奪戦@意見交換会】

3. 第12回総会に参加して

いよいよ「総会」に初リアル参加です。最初にしたのは「お土産を用意し損ねた～」でした。どうしたらいいのだろうと思いつつ、愛知県経由だったことも相まって手ぶらで参じており、これは痛恨の極みでした。お土産テーブルがあるのを教えておいてほしかったです（笑）。

前日に続く北海道支部の皆さんの団結力を垣間見つつ、会場設営や当日の流れを学ばせていただきました。全体を通して、改めて当会の偉大さを知る機会となりました。来年度の総会に向けて、私も微力ながら尽力させていただければと思った次第です。

4. 総会を終えて

総会後は、沼田さん@東日本支部と白川さん@西日本支部と札幌市街地を巡り、交流を深めました（白川さんは前職の同僚で当会の加入を勧めてくださったのも彼女です）。

道庁前で開催していたイベントに参加しつつ、ドボジョらしい会話で盛り上がりました。



【第12回総会の開催模様】

5. おわりに

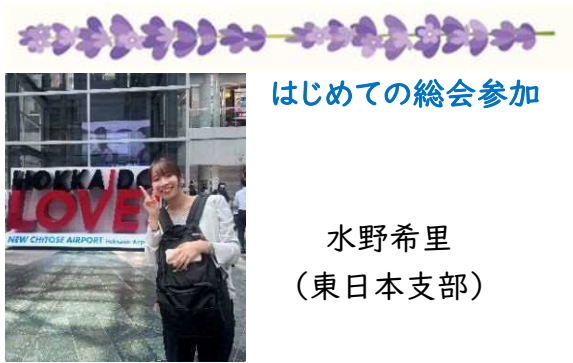
翌日は、白川さんとエスコンフィールドにも訪れることができ、人生初の北海道は大変思い出深いものとなりました。

最後になりましたが、当会での皆様との交流で、いつもパワーと今後への励みをいただいています。ありがとうございます。

これからもどうぞよろしくお願い致します。



【沼田さん、白川さん、クラーク博士と
@札幌時計台】



はじめての総会参加

水野希里
(東日本支部)

当会に入会して1年が経ち、今回初めて総会に参加させていただきました。北海道へ行くのも初めてでしたので、「会の皆さんとたくさんお話出来るかな」「炭鉱なんて初めてだな」「美味しいもの沢山あるし何を食べようかな」と、いろいろなことに胸を躍らせていました。

炭鉱について

炭鉱といえば、私は線路があってトロコが走っているような坑内掘りのイメージがありました。今回の関連行事をきっかけに、はじめて露天掘りの存在を知りました。

現場まではバスからワゴン車へ乗り換えての移動でした。道中は砂埃舞う山道を駆け抜けながら鹿を見かけたりして、「アドベンチャー系のロケみたいだね」と盛り上がっていました。到着して目にした広大な露天掘りと、間近で見る大型の重機は想像以上に大きくて圧巻でした。

稼働中の炭鉱を見学して、バックホウのバケットに乗せていただいたり、とても貴重な体験が出来ました。集合写真に石炭に、素敵なお土産をありがとうございました。

総会について

今年の総会は、43名の会員が現地に集まりました。人数に対して顔見知りの方も少なく、最初は不安と緊張でいっぱいでしたが、前日の現場見学会と懇親会でお話した方や、今までのイベントで何度かお会いしたことがある方から声をかけていただいたり、自分から声をかけたりと、沢山の方とお話できました。皆さん優しく接してくださり、会の入会が浅い私でもすごく楽しい二日間を過ごせました。



【炭鉱のバックホウ】

今までは、案内メールを見てイベントに参加するだけでしたが、総会では、理事選任や他の支部での活動報告を聞いたり、運営側目線でより深く土木技術者女性の会を知ることができました。これを機にもっと積極的に会の活動に参加していきたいと思いました。来年の総会は、東日本支部開催ということで、準備から携われたらと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

今回、お仕事もお忙しく大変な中で、素敵な現場見学会の企画と総会準備をしてくださった北海道支部、運営委員会の皆さま、改めてありがとうございました！

新任運営委員の紹介

今年度は、監事やWGリーダーの交代がありましたのでご紹介致します。

副会長就任にあたって



副会長
(企画広報局担当
/会長代理)
深瀬 尚子

このたび、副会長に就任しました深瀬です。

仕事や学会などの集まりで、当会の紹介をする際は「創立から40年」という説明をする時に一番力を入れます。そしてそれを聞くと皆さん「そんなに昔からあるの!?!」と、とても驚かれます。職種も仕事場も年代も違う先輩技術者の方々が、本業の傍ら、自らの運営のみでここまで当会を継続してくださったおかげで、私はたくさんの方々に会い、様々な経験を得ることができました。西日本で支部長も十分楽しみましたので…ここからは会にしっかりと恩返しすべく、副会長を務めて参ります。

まずは大きく「50年」という節目を迎えるための準備を整えていきたいと考えていますが…今のところノープランです!! 皆で一緒に考えましょう。

次に、就職支援冊子「Civil Engineer への扉」の更新です。前回の発行から10年を迎える2027年には内容を新たにし、現在の学生達が将来を考えるための一助となるものを製作したいと考えていますが…これもまだ助走段階です。一緒に製作してくれる方を募集します! 他にも色々と考えたりして、一人でニヤついているので、何かやりたい方は是非お声がけください!

事務局長就任にあたって



分掌部門担当理事
兼 事務局長
後藤 佳子

このたび、事務局長に就任いたしました後藤佳子です。今までは、事務局スタッフとして事務局会計などを担当しながら、理事選出管理委員会事務局スタッフを兼務していました。直観で動くタイプの人間のため、深く考えずに事務局長の任をお受けしてしまいました。皆様に助けられながら、事務局長の任にあたればと考えています。事務局はいわば「縁の下」の力持ち的な存在と感じています。事務局長として、皆さんのお役に立てるよう、頑張ります。

私は、現在、育休から復職し、仕事と家事・育児の両立という永遠のテーマに悪戦苦闘し



【休みは釣りを乐めます!】



ながら、バタバタとした毎日を送っています。その中で最も大切だと感じたことは「無理をしないこと!」です。事務局活動もスタッフ皆さんが無理をしないよう、何かあれば気軽に改善・提案を行い、柔軟に対応していけるようにしていければと思います。これからも宜しくお願いいたします。

企画広報局長就任にあたって



分掌部門担当理事
兼 企画広報局長
青木 治子

この度、企画広報局長に就任させていただきました、中部支部の青木です。企画広報局設立時より、長く企画広報局を引っ張ってきていただいた、村上育子さんの後を引き継がせていただきました。私自身も、企画広報局設立時から、局員として活動をしてまいりましたが、いざ、局長となると幅広い活動に右往左往しているのが現状です。

さて、今年 7 月に、(公財)日産財団が主催する「第7 回リカジョ育成賞」において「準グランプリ」を受賞することができました。リコチャレやキャリアセミナーなどといった、各支部での様々な活動の成果の賜物です。イベントに協力いただいた会員の皆様、ありがとうございます。

建設業界では、「リカジョ」や「ドボジョ」といった言葉は定着し、女性も活躍できる、という認識は進んできていますが、世間一般では「リカジョ」の進学、入職への不安、「土木」や「ドボジョ」の認知度不足など、建設業界との乖離は未だ大きいです。当会には、所属先も年齢も、バックボーンも様々な、多様な会員が所属して

おり、当会のイベントや取り組み、培ってきたノウハウは、これから益々重要となってきます。



【2023 年度に地元小学生を呼んで当会と
中日本高速道路(株)で共催した現場見学会】

今後も引き続き、

- ①様々な SNS を活用して、当会の活動を幅広くアピールすることで、土木界で働く女性の認知度アップ、地位向上、そして土木好きな女性を増やしていく
- ②建設産業女性定着支援ネットワークなどを通じて、当会がこれまで培ってきたノウハウを共有するための橋渡し役
- ③各支部で開催している各種イベントの支援や、会員を対象とした勉強会の開催などを中心に進めて参ります。企画広報局へのご提案、ご要望などございましたら遠慮なく連絡ください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

分掌部門担当理事兼会計担当 就任にあたって



分掌部門担当理事
兼 会計担当
栗田 有紀子

2019 年度より経理チームリーダーとして会の運営に携わっておりましたが、このたび、分掌部門担当理事兼会計担当に就任しました栗田有紀子です。経理チームリーダーになった

時は、自分にこのような大役が務まるのか不安しかありませんでしたが、皆さんに助けられここまでやってくることができました。本当にありがとうございました。普段の仕事ではまったく縁のない『経理』業務でしたが、この仕事を通じて自分の会社の決算などにも興味を持つようになり視野を広げることができました。また、様々な人との繋がりを持つことができ、改めてこの仕事を引き受けてよかったなと思います。これからは、会計担当理事として俯瞰的に見ることで、皆さんの負担が少しでも減るように経理チームの仕事をサポートしていきたいと考えています。

会社の仕事で、土木系の学生さんを現場に連れていくと、まだまだ現場のイメージが悪いことに驚かされます。10年前、20年前からどんどん変わってきている建設業界、そしてこれからまたどんどん変わるであろう建設業界の魅力を少しでも多くの人たちに発信できるよう、理事としての務めを果たしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

支部長就任にあたって



西日本支部長
長 千佳

この度、西日本支部長に就任しました奥村組の長と申します。私は、2017年に当会に入会し、深瀬支部長のもと、昨年度までの4年間は企画広報局員西日本支部担当をしていました。会社では、ゼネコンの土木職でありながら、20年近く環境関連の現場支援・技術開発等の業務に携わってきました。

土木技術者女性の会は、とても魅力的な方々の集まりで、皆さんにお会いすると、適度に刺激があり、仕事への活力が湧いてきます。私自身、支部イベントに毎回楽しく参加させていただいてきましたので、今年度は皆さんのご協力をいただきながら、より楽しい西日本支部イベントを開催できればと考えております。WEB会議が主流化している近年ですが、ぜひ、直接会って、皆さんと交流できればと思います。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局経理チームリーダー就任にあたって



経理チームリーダー
小川 由布子

この度、栗田有紀子さんより経理チームのリーダーを引き継ぐことになりました。小川由布子と申します。よろしくお願いいたします。

これまでは事務局経理チームにて、口座管理や会費請求等を担当しておりました。長い間、リーダー業務を側で拝見していましたが、特に決算時には緻密さが要求される大変なお仕事で、私が担当することになるとは全く考えていませんでした。また、10年ぶりの新しい仕事となり大変不安ですが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



●●● 運営委員 退任によせて ●●●

新体制移行にあたり、前会長 牛山 育子さん、前分掌部門担当理事兼事務局長 佐藤 亜紀子さん、分掌部門担当理事兼企画広報局長 村上 育子さん、分掌部門担当理事兼会計担当 齋藤 由紀子さん、運営委員 法務担当 水野 香織さん、40 周年記念作成 WG リーダー 鈴木 由美さんが退任されました。長年、当会のためにご尽力いただいたこと、改めて感謝申し上げます。



退任によせて

牛山 育子
(西日本支部)

本年 6 月の総会をもって、会長職を退任しました。副会長 4 年、会長 4 年と 8 年もの理事就任期間を支えてくださった皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。会長職を務めている 4 年間のうち半分以上がコロナに悩まされた時期で、思ったような活動ができず、もどかしいこともありました。しかし、対面でできないことをカバーするかのように WEB 会議のツールが充実し、また役所のようないわゆる堅い職場にまでテレワークが浸透したことは、まさに怪我の功名だったかもしれません。

対面でできないことが増えた代わりに、良いこともいっぱいありました。WEB 会議が気軽にできるようになったことで、全国の会員と移動時間を気にせず、いつでも話ができるようになりました。また、交通費がかからない分、その予算を他の活動で使えるようになりました。もちろん、デメリットもありますが、ここまでテレワークが一般的なものになるとは、というのが素直な感想です。

総会運営や総会前イベントも、事務局はもちろん、各支部で本当に様々な工夫をしてくださいました。見学先を前撮りしてイベント当日、解説しながらの紹介は、本当にその場にいる気分

にもなりました。総会開催に尽力いただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。今年は、コロナ禍も一定収まり、対面でのイベントや総会開催が完全復活しましたが、ぜひ今後も WEB の良さも生かしてほしいと思います。

理事になって 8 年、ちょうど更年期障害の最盛期と重なり、自分の頭や気持ちが思うように追いつかず、非常につらい時期もありました。ですが、会の創立 40 周年の節目に立ち会うことができ、記念誌まで完成させることができたことはとても良かったと思っています。

また、理事に就任し、組織をまとめ、動かすことが私にうまくできていたかは今でも自信はありませんが、それでも役職に就いたことで、仕事にも役立つことが多かったと感じています。会の仕事をする中で、自分の本業にも生かせることがたくさんあります。これをお読みいただいている方々には、ぜひ組織を運営する経験をしてほしいと思います。この経験は、本業でさらに活躍できること間違いなしです！



やっぱり土木が好き (またまたテレながら…)



佐藤 亜紀子
(東日本支部)

事務局のお手伝い。これが事務局との出会いで、確か27年前のことでした。資料作成や電話やファックスでの連絡に始まり、徐々に会員管理や会費管理等々の業務に携わって参りました。思うように進まないこともありましたが、先輩の一言で前に進む勇気が出たこと。失敗して先輩や周りのみなさんにフォローしていただいたこと。思い出や反省は、盛沢山で書き出したら止まりません…事務局での活動を通じて様々な経験や出会いの場をいただきました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

6年前、会員サービスや会の運営を停滞させないようにと肝に銘じ事務局長に就任しました。その後、理事の立場での活動になりましたが、山のようなメールやオンライン会議で多くの議論を重ね、とても中身の濃い時間を過ごしました。

多忙な仕事。慌ただしく予期できないことが起こる子育て。急に訪れる親の介護。ちょっと大袈裟ですが、いろいろな事件に巻き込まれ、対処しながら過ごしている私たち…そのような中、会の役職やスタッフに就くことは容易なことではありません。ですが、運営や事務の専従者を持たない当会にとって、みなさんの力が必要です。もし、役職の声かけがありましたら、ぜひチャレンジしてみてください!! きっとこれまでに経験したことのない何かが見つかり、今後の仕事や生活の糧になるはずですよ。

これからも渡邊第6代会長が第5回総会にて掲げたスローガン【カラフル・パワフル・ハートフル】を大切に活動する会であり続けることを願

っています。ちょっとテレますが、やっぱり土木が好き!

退任の挨拶 ～土木とドボジョのPRを これからも!～



村上 育子
(西日本支部)

2016年の新設と共に就任した企画広報局長を退任しました。8年間、いろいろありましたが、企画広報局メンバーのみなさんのお力を借りて、なんとか軌道に乗せることができました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

私自身、何よりも嬉しかったのは、後任の若い方へちゃんとバトンを渡せたことです。先輩方から受け継いだ40年という歴史ある会を、あらぬ方向に導かぬように、また時流に乗り遅れることなくように、そして会の根幹を守りつつ、理事として運営を進める必要がありました。

運営に携わっているときは、あまり実感していませんでしたが、総会終了翌日の北海道の地ではしやぎぶりを振り返ると、自身でもプレッシャーを感じていたことを改めて実感しています。

先日の(公財)日産財団主催の「第7回リカジョ育成賞」では、惜しくもグランプリは獲得できず、準グランプリの受賞となりましたが、次世代育成活動における成果発表の場で、審査員を務める工学系を専門としない7名の教授陣から、土木の認知度の低さを指摘され愕然としました。これまで土木界における女性の活躍をPRしてきたつもりでしたが、それは同業界内だけの話であって、そこから一歩外に出れば、教育関係者でさえも、女性の活躍どころか、土木を

全く知ってもらえていなかった現実がそこにはありました。

次に会を担うみなさんには、これからも土木の魅力を発信していただき、土木の必要さ・面白さを広めるとともに、一人でも多くの学生に「土木を学ぶ・働く」ことを目指す土壌を作り上げていただければと思います。

最後に、当会は、経営母体を持たない自主運営型で、活動歴も長い稀有な団体でもあります。活動に参加するメリットとしては、自分たちが発案したことをすぐに実行に移すこともできるため、楽しいだけでなく、大変やりがいもあり、自然と自信も芽生えてきます。ですから、会員のみなさんには、各イベントに参加するだけでなく、ぜひとも運営にも参画してみてください。男性社会の特徴でもある縦社会とは異なり、みんなで意見を出し合いながら組織を運営していく、まさにこれからの女性のリーダー像を体現できる貴重な経験となることから、必ずやみなさんの今後のキャリアに役立つことと思います。

運営委員としては、西日本支部長（関西地区世話役を含む）時代から通算12年となりますが、会から学んだことは数知れず、多くの経験をさせていただきました、心より感謝申し上げます。今後は後任のみなさんを応援する側に回りたいと思います。



【総会翌日、解放感から
エスコンフィールドではしゃぎまわる私】



【退任祝いのタンブラー
ちょうどよい大きさにて毎晩ご機嫌♪】



理事退任のご挨拶



齋藤 由紀子
(九州支部)

6月22日の第12回総会をもって理事を退任しました齋藤由紀子です。

この原稿を書いているとき、令和6年9月能登半島豪雨が発生しました。元日の大地震に続いて被害に遭われた方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。河川行政に関わる者の一人として悲しくショックを受けていますが、目の前の仕事に向き合って進めていくことが自分の役割だと言い聞かせて、日々の仕事に取り組んでおります。

さて、私は2020年6月から4年間「分掌部門担当理事 兼 会計担当」を担当いたしました。経理・会計業務は、一般社団法人である当会を支える大事な事務である一方、会員の方々には見えにくい裏方の仕事でもあります。会員情報・会費管理システムが導入され、負担が軽減されつつありますが、技術者としての通常業務とは勝手が違い苦勞する部分もあります。会員の皆様には、後任の栗田理事と経理チームを是非応援いただきたくお願い申し上げます。

最後に、事務局や理事の仕事を通じて当会のさまざまな会員と出会うことができました。変な話ですが、当会の損益計算書や貸借対照表に関わることで、私自身の家計やライフプランにも意識を向けられるようになりました。月並みですが、そういった出会いや経験が、人生の財産になったように思います。このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

活動はつづくどこまでも



水野 香織
(中部支部)

中部支部長として4年、理事として4年、さらに規則担当として2年、計10年間を運営委員として活動させていただきました。その間、たくさんの出会いと経験を得ることができました。思い出いっぱいの10年間です。

途中、コロナ禍を経て、運営委員会の形態も、対面会議からZOOM会議に変更になりました。運営委員の皆さんと直接お会いする機会が減って残念に思っていたのですが、現在では、運営委員会に加え運営委員会MTGも始まり、画面越しではありますが打合せする機会が増えました。何があってもプラス方向に動くことができる、柔軟で強い会だと思います。

運営委員会は卒業しましたが、会員活動はこれからも続きます。50周年に向けて、これからの活動にも、わくわくしています。

思い起こせば、運営委員になった年に、10年ぶりに作業所配属となりました。高山市荘川町でのトンネル工事でした。久しぶりの現場、はじめての現場宿舎、初めての豪雪地帯での生活に、気持ちが追い込まれ、支部長を続けられるどうか思い悩みました。会の活動は一人で行うわけではなく、仲間と共にある。そんな当たり前のことに気づけず、すべてを放り出すところでした。あの時、励ましてくださった皆様には、大変感謝しています。続けたおかげで、この素敵な10年間を過ごすことができました。そして、たまたまですが、運営委員会の卒業と時を同じく、支店勤務が始まりました。会の活動としても、個人的

にも新しいフィールドを、楽しみたいと思います。
ありがとうございました。



創立 40 周年記念誌の完成まで、長くお待ち
せしましたが、昨年 11 月になんとかウェブサイ
トで電子ブック版を一般公開することができまし
た。皆様、ご覧いただけたでしょうか？

この記念誌には、数々の貴重なエピソードや思
い出が詰まっており、会の現況やこれまでの歩
み、歴代会長のインタビュー、そして若手会員に
よる座談会と会員アンケート(いま、そして 100
年後の土木界)が盛り込まれています。

全体で 60 ページを超えるボリュームのある記
念誌となっていますが、もしまだご覧になってい
ない方がいらっしゃったら、ぜひ一度ご覧いただ
き、カラフル・パワフル・ハートフルな女性土木技
術者たちの魅力と情熱に触れていただければと
思います。

さて、WG リーダーは 6 月の総会にて退任しま
したが、現在は企画広報局員として、記念誌の
改訂版と資料集の作成作業を続けております。
こちらについても、完成まで、今しばらくお待ちい
ただければ幸いです。引き続きご支援とご協力
をお願い申し上げます。

メディア掲載

会のウェブサイトにて最新情報を掲載しています。

<https://www.womencivilengineers.com/related-article>

サポーターおよび新規会員募集

一般社団法人土木技術者女性の会では、当会の活動をさらにパワーアップするため、私たちの理念
に賛同し、継続して活動を応援して下さる「サポーター」を広く募集いたします。皆さまのご支援をどう
ぞよろしくお願いいたします！ <https://www.womencivilengineers.com/admission/membership-type>

寄附制度のご案内

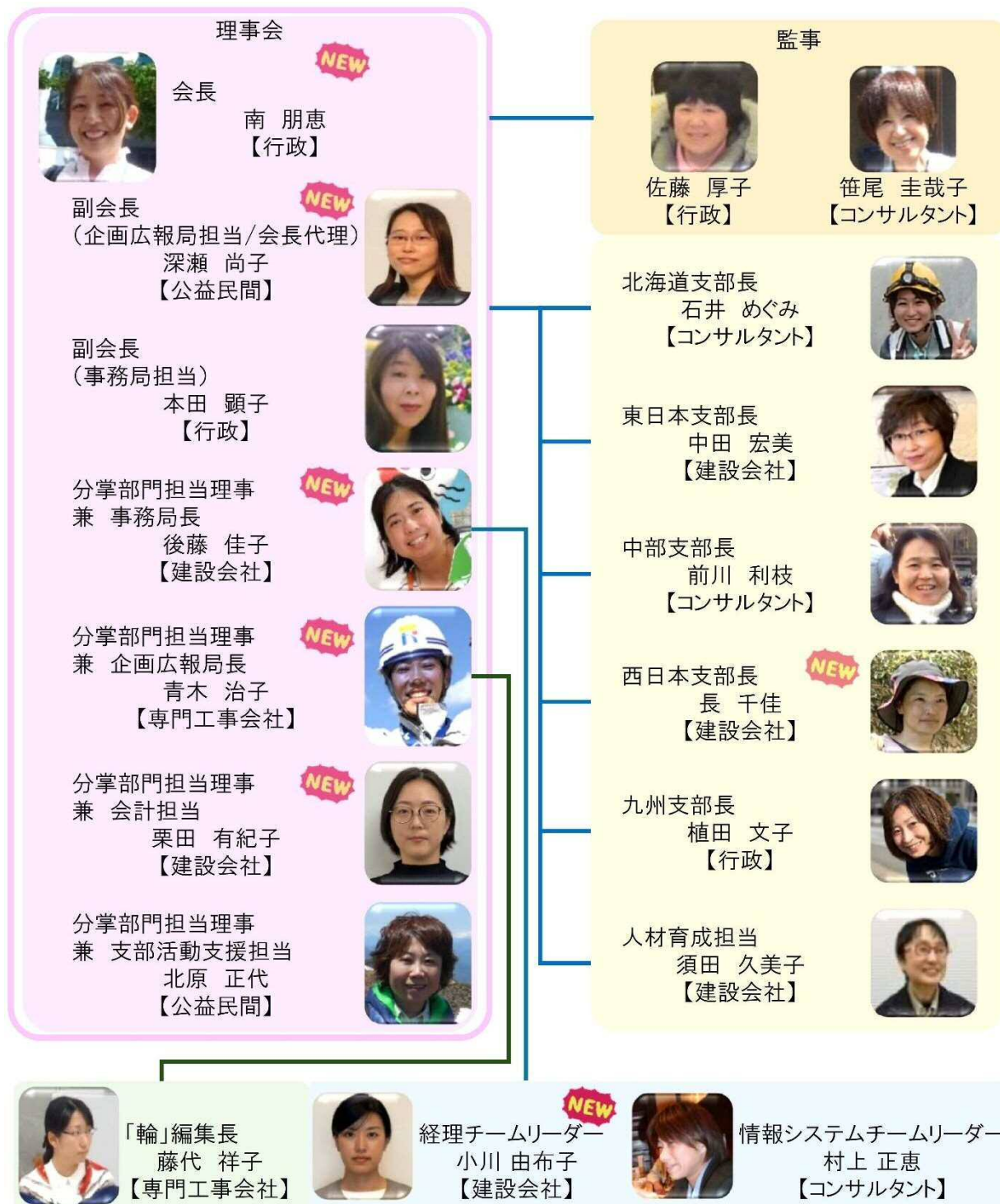
土木技術者女性の会は、土木学会誌(1982 年 9 月号)に掲載された「座談会：女性土木技術者お
おいに語る」がきっかけで 1983 年 1 月に発足しました。任意団体として 30 年の長きにわたり活動を
し、2013 年 11 月 18 日(土木の日)に一般社団法人 土木技術者女性の会として新たなスタートを
切りました。全国規模での総会、見学会やセミナー、シンポジウムや支部による活動などを通じて、女性
土木技術者、将来の女性土木技術者に対して幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の
場、キャリア継続支援の場を提供しています。

つきましては、当会の社会貢献活動への取組をご理解いただき、ぜひ、一般社団法人 土木技術者
女性の会への御寄附をお願い申し上げます。

<https://www.womencivilengineers.com/donation/guidance>

(一社)土木技術者女性の会 組織図 2024

2024年度の運営委員をご紹介します。当会の運営は、このほかにも各組織・各支部に多くの有志によるスタッフが所属し、支えられています。スタッフは随時募集していますので、興味のある方は所属する支部の支部長までご連絡ください。



□ : 理事

【●●】: 勤務先業種

40 周年記念誌作成ワーキンググループ

「40 周年記念誌」ができるまで

2022 年に創立 40 周年を迎えるのを機に、これまでの当会の歩みをまとめた記念誌の編集をするため、2020 年 12 月に 40 周年記念誌作成 WG が設置されました。

記念誌が会の歴史書としてはもちろんのこと、会の資料集としての役割も果たすべく、構成及び文面の見直しを重ね、2023 年 11 月にウェブサイト(外部サイト)にて電子ブック版の記念誌を一般公開しました。その後、記念誌が発刊できたことから、当 WG は 2024 年 3 月末をもって解散しました。

この特集では、40 周年記念誌の作成の流れについてご紹介いたします。

1. メンバー紹介

WG メンバー：松本香澄^{※1}、鈴木由美^{※2}、今井亮子、時弘みどり、長谷部直子、米田咲、中村香央里

アドバイザー：笹尾圭哉子、須田久美子

査読協力：理事会、運営委員会、箱田裕子、山田菊子、渡邊弘子

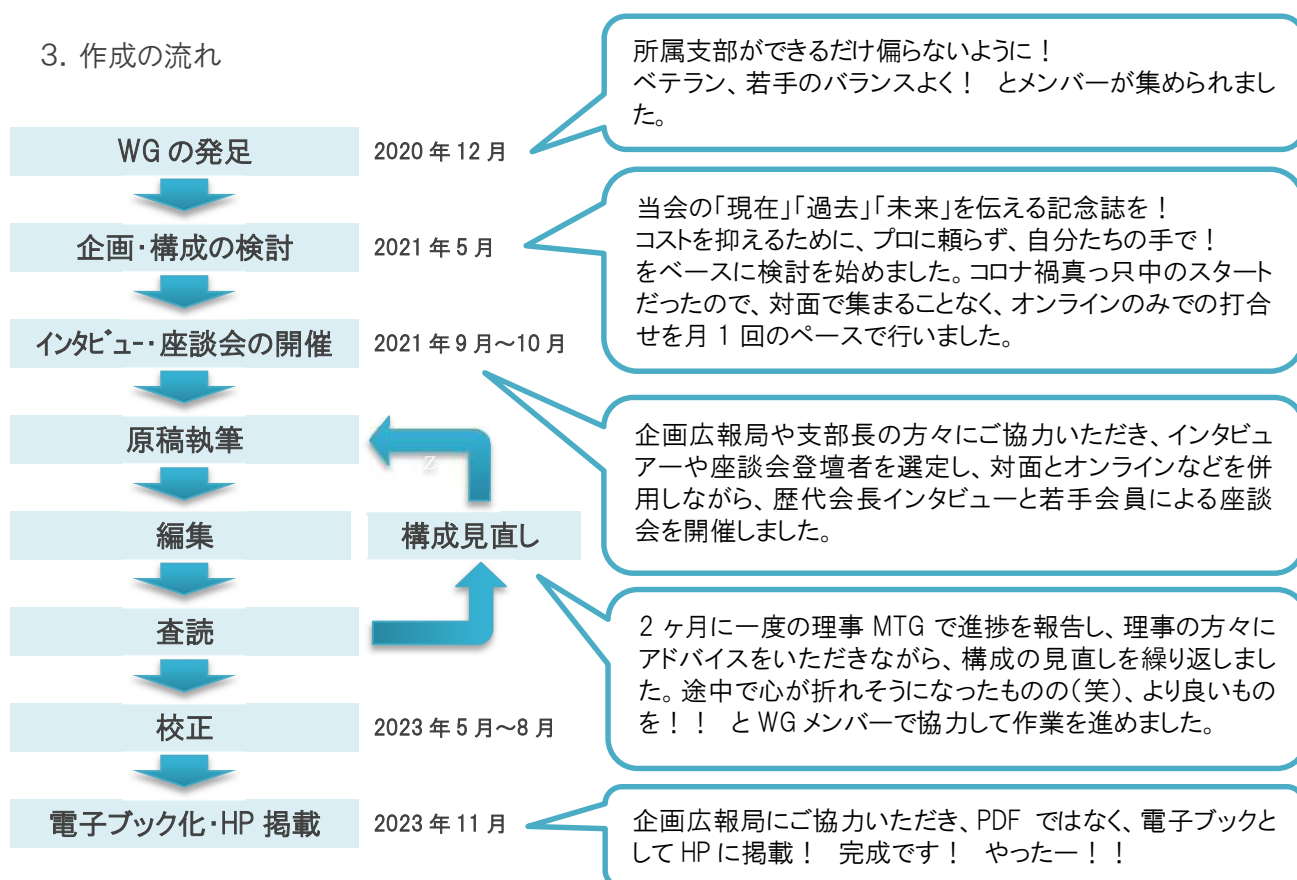
表紙：南部真有香

※1：WG リーダー 2020 年 12 月～2023 年 6 月、※2：WG リーダー 2023 年 6 月～2024 年 3 月

2. 仕様

A4 判、86 ページ、フルカラー、電子ブックによる一般公開

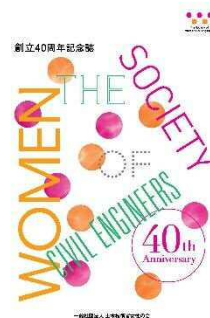
3. 作成の流れ



記念誌の内容について、ちょっとした裏話？ をご紹介いたします。

●表紙

当会のシンボルマークをデザインしてくださった南部真有香さんに記念誌の表紙デザインをお願いしました。当会の英字名「THE SOCIETY OF WOMEN CIVIL ENGINEERS」が、シンボルマークのカラーをベースにしながら楽しく構成されています。それぞれひとつひとつ異なったパターンの水彩調のドットに、土木技術者女性の会の会員の個性や様々な職種などを表現してくださいました。



●第1章

当会の「現在」をまとめました。一般会員として在籍しているだけでは全体像は把握できていないもので、分からないことが多く、事務局の方々に資料を提供していただきながら、原稿を執筆しました。支部の紹介では、全支部長にご協力をいただきました。ありがとうございました！

●第2章

当会の「過去」として、会の歩みをまとめました。一番苦労した章かもしれません。当初の企画・構成の検討時には、漠然と会の歴史をまとめたいと思いつつ、具体的なイメージが浮かばず、他の章を進めていく中で、形にしていきました。いざ執筆！となった際にも、40年も続く会の歴史を見返してみると、書くべきイベントが多すぎて、取捨選択に苦しみました。また、原稿を書き始めると詳細な内容が分からず、輪や総会資料をイチから読み直したり、設立当時をよく知る方にヒアリングや資料提供をお願いしたり、WGメンバー総出で執筆しました。



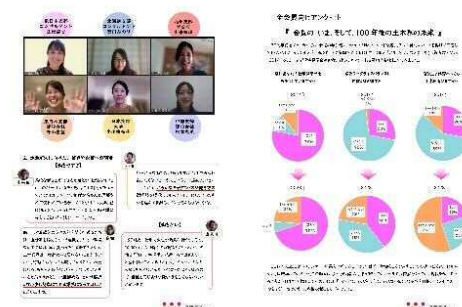
●第3章

6名の会長経験者の方々のお話をまとめました。こちらは、当初の企画・構成の検討時から、ぜひやりたい企画の一つでした。元会長の方が所属されている支部の支部長と若手会員にインタビューになっていただき、インタビューを行いました。コロナ禍の真っ只中であつたこともあり、対面・オンライン・文章でのやりとりと様々な形となりました。どの方もポジティブで、明るく、前向きで、温かい方々ばかりで、インタビューアもWGメンバーもとてもいい刺激を受けました。



●第4章

「未来」に目を向けた章です。まず、若手会員による座談会をオンラインで開催し、いまの課題と、技術者として、会としてできること、土木界に今後期待することを話しました。同世代として共感しつつ、10年後に今の課題が過去のものとなり、期待が現実となっていることを願っています。そして、構成を見直していく中で、追加で全会員向けにアンケートを実施し、いまの働き方を見つめるとともに、100年後の土木界の「未来」を思い描いていただき、会員の声としてお届けしました。



●コラム

5つのコラムを掲載しました。どれもが当会を象徴する内容です。特に、坑内労働規制緩和と当会の関わりについては、会の歴史を語るうえで、欠かせない重要な事項です。アドバイザーの笹尾さんに執筆をお願いし、同じくアドバイザーの須田さんを始め、当時の関係者に事実関係の確認を行いながら、内容をまとめました。トンネルという大昔から存在する構造物に対して、つい数十年前まで、たとえ現場見学であったとしても、工事中のトンネルに女性が入坑することを拒否される場合があったのです。若い会員の方にもぜひ読んでいただけると嬉しいです。



●ぶたさん

創立初期から、当会を明るく支えてくれたぶたさん！ 今回の記念誌発行に合わせて新作を提供いただきました。どれもそれぞれの時代の「今」を表現するステキなデザインですね。



報告：鈴木 由美(40周年記念誌作成WG元リーダー)

40 周年記念誌作成 WG メンバー 編集後記

松本香澄(東日本支部)

ありがたいことに、「土木技術者女性の会」の活動には、いつも楽しく参加しておりました。その会も設立して 40 年を迎える、ついでに 40 周年記念誌を作りたい、という話を牛山前会長から伺いました。これまでに大変お世話になったユニコーン先輩方のお顔を思い浮かべ、少しでもバトンをつないでいくお手伝いができれば、とお引き受けしたのは、ほんの数年前の話です。



残念ながら、途中で体調を崩し、やむを得ず WG を離脱することとなってしまいましたが、その後、WG リーダーを鈴木由美さんが引き継いでくださり、また関係者の皆様の大変なご尽力のおかげで、無事、記念誌が完成したことを聞きました。

自分にとって、今回の WG 参加は、「感謝」という言葉の重みと、人生の黄昏とを同時に実感するたいそうな機会となりました。結果的に、作業の後半を若手に託すことになったのは「神様からのお導き」だったのかもしれない…などと今頃思っている次第。皆様方が、健康で、笑顔で、次の記念誌を作る日が迎えられるよう、心からお祈りしております。ありがとうございました。

鈴木由美(西日本支部)

18 年前に建設会社に入社し、10 年ほど前に当会に入会しました。が、本業と子育てに忙殺され、長い間幽霊会員でした。今回、支部長からのお声がけで WG に立ち上げから参加し、途中でリーダーのポジションを松本さんから引き継ぎました。



記念誌の作成作業は予想以上に大変でしたが、当会の 40 年という長い歴史に触れ、大先輩方からお話を伺う機会や、現在の会を運営している先輩方と直接お話しする機会をいただき、土木技術者としてのキャリアを築く上で、とても貴重な経験となりました。

紆余曲折はありましたが、皆様のご協力のおかげで記念誌をなんとか完成させることができました。この場を借りて心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました！

今井亮子(東日本支部)

職場の先輩女性に勧められ、土木技術者女性の会に入会しました。そこから約 10 年、たまにイベントに参加する程度でしたので、このような形で会の活動に関わる機会が訪れるとは思ってもいませんでした。今回、40 周年記念誌作成 WG の一員として、このプロジェクトに携われたことを大変光栄に思います。



本業の業務に加え、WG の作業も並行して行うことは、思った以上に大変な時期もありました。しかし、この経験を通して、新たな出会いや情報、考え方を得ることができ、私自身が成長できたと思います。特に、歴代の会長の方々へのインタビューに立ち会えたことは、貴重な経験となりました。

また、WG のメンバー他ご協力いただいた皆さまが、ボランティアとは思えないお仕事っぷりで、されているであろう努力を微塵も感じさせずしなやかだったのが印象的でした。新たなロールモデルを見ることができました。リーダーをはじめ、ご協力いただいたすべての皆さまに心から感謝申し上げます。

米田咲(東日本支部)

2021 年、私は仕事で西日本から東日本へ転勤し、現場から内勤へとシフトしました。コロナ禍でリモートワークという慣れない状況の中での慣れない業務、すべてが手探り状態。そんな中、記念誌 WG のお誘いをいただきました。「内勤になったら会の活動に参加したい！」と思っていた私にとっては絶好のチャンス！ と、軽い気持ちで引き受けましたが、正直なところ、



思っていた以上に大変でした(笑)。新しいことばかりで、てんやわんや。今まで会のイベントに参加する側だった私は、運営の大変さを身をもって知りました。ただ、記念誌作成を通して会の歴史に触れ、インタビューや座談会で多くの方のお話を伺えたことは、私自身の励みとなりましたし、読んでいただく皆さまにも響くものがあると思います。関わっていただいた皆さまに心より感謝申し上げます。まだオンライン会議でしかお会いしていない WG メンバーも多いですが、ぜひ一度対面で集まりたいですね。素敵なメンバーとご一緒できたことを誇りに思います。これからも頼りにしております！ ありがとうございました。



時弘みどり(東日本支部)

大学に入学した当初、先生から土木学会誌の座談会のページのコピーをいただきました。「こんな集まりがあるんだ」と思い、就職をしたら入会しようと思っていました。そして、ほぼ就職と同時に入会しました。

総会を初めとする様々な催しにも参加し、たくさんの仲間もできてプライベートでも旅行に行ったり飲みに行ったりしました。あれから36年、先輩方や仲間たちに励まされて、今日の私があると思っています。

そんな会を後世に伝えることのお手伝いが少しでもできて、とても嬉しく思います。また、このWGで繋がった方々との交流もでき、いい思い出になりました。ありがとうございました。

**長谷部直子(西日本支部)**

私は「若手会員による座談会」を担当いたしました。担当分けをするときに、ぜひ座談会を担当してみたいと手を挙げたのは、同年代の皆さんがどのような考えを持っておられるのか、ざくばらんに話を聞ける機会が貴重だと考えたからです。

各支部の職種も年齢も異なる会員の皆さんとWeb上で対話し、とても元気をもらえたことを鮮明に覚えています。写真の表情からも分かっていたかと思いますが、みなさん明るい！葛藤や悩みを持ちながらも、自分達にできる事を率先してする、そんな心強い皆さんの話を聞いて、私もまた明日から肩の力を抜きつつ、自分らしく頑張ろうと思えました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

**アドバイザー：笹尾圭哉子(東日本支部)**

はじめて会に参加したのは1990年の第9回総会でした。富士山での合宿で技術士の合格体験談などを聞き、大沢崩れの砂防現場を見学し、見学会の様子が土木学会誌に掲載されて客先の自治体の人の目に留まるという、とてもインパクトのある体験をしました。総会デビューのほかに長年の地区活動のことや30周年記念事業での熱量、『どぼく木未来フォーラム』で中村哲先生のメッセージをいただいたことなどが強く印象に残っています。会員のみなさんの会を大切に思う気持ちが40年以上にわたる活動を支えていると感じます。

40周年記念誌の編集では、昔のことを知らない若い方たちに、私の記憶にあることでフォローできればと参加しました。また、会の5つの目的が当初からこれまで一貫して変わらないこと、坑内労働規制緩和に向けた活動のことは是非とも記事にして伝えたいと思いました。当初予定していたコンテンツから次第に期待値が上がっていき、記念誌発行の作業量は大幅に増えました。若い方たちを中心に、WGメンバー全員が頑張りました。これからもこうした頑張りが会を支えていくのだらうと思います。編集に携わったみなさん、お疲れ様でした。

**アドバイザー：須田久美子(東日本支部)**

新入社員の時に、会社の先輩の天野玲子さんから「議事録係ね！」と言われて参加したのが会と関わる最初でした。そこで出会った諸先輩方のお陰で40年以上も仕事を続け、更には「土木現場で働く人の半分以上を女性にしたい」という夢を持って建設産業界に関わり続けることが出来ていると思います。極端に女性が少ない土木界で独自の活動を展開してきた会の取組の歴史には、全ての人がイキイキと働き続けるノウハウが詰まっていると思います。

**牛山育子前会長からのメッセージ**

記念誌作成に関わったすべての皆様、大変お疲れ様でした。私や企画広報局長の他、各理事からの様々な要求にもめげず、記念誌を完成にこぎつけてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。一番の肝であった会の歴史の章は、40年分の歩みが誰の目から見ても分かるよう、一から見直しをお願いしました。WGメンバーの方々は大変だったと思いますが、完成品を見て、あの時、やり直しをお願いして良かったと思いました。

会員歴の浅い方々から、会のことを外向けに説明できる資料がほしい、という声があり、それをこの記念誌を示すことで叶えたい、また、将来に向け、活動してきたことをきちんと記録に残したいという思いがありました。WGメンバーの方々が伝えたいこともたくさんあったと思います。記念誌にはいろいろな思いが込められています。WGメンバーをはじめ、見事に思いを汲み取り、期待に応えていただいた皆様、本当にありがとうございました。



【祝！受賞！】 当会が公益財団法人日産財団主催 『第7回リカジョ育成賞 準グランプリ』を受賞しました



●贈呈式の様子(写真中央:牛山育子前会長、右:村上育子前企画広報局長)

●賞状とトロフィー

2024年7月26日、公益財団法人日産財団主催の「第13回理科教育賞・第7回リカジョ育成賞贈呈式」が行われ、当会の小中高校生を対象とした次世代育成への取組が

『第7回リカジョ育成賞 準グランプリ』

を受賞いたしました。

同賞には30件の応募があり、選考委員会により選定されたグランプリ候補3組が贈呈式に登壇しました。

当会は、「**リカジョ PR 大作戦～おもしろさ発見！女性技術者による土木のススメ～**」と題して取組の成果を発表しました。建設業における女性就労者の少なさへの課題意識から、土木業界において「魅力に気づく」「興味・関心を抱いてもらう」「選択肢の一つにしてもらう」「リカジョが活躍している」の4本の柱をもって、小中

学生や高校生の女子、さらに保護者を意識して各種“作戦”を敢行していることを紹介し、取組成果として関心・興味や理解度の高まりが見られていることを報告しました。

応募者や選考委員に学校関係者が多い同賞の中で異彩を放った当会の発表は高く評価されましたが、惜しくも準グランプリという結果となりました。

「惜しくも」としたのは、今回プレゼンテーションに臨んだメンバーはグランプリ受賞を目指して準備を行い、手ごたえも感じていたからです。なぜ今回準グランプリに留まったのか、資料制作や発表を担当したメンバーのうち、当日発表を行った前会長(牛山育子氏)と前企画広報局長(村上育子氏)が振り返りを行いました。

※「リカジョ育成賞」とは

「人材育成を通じて豊かな未来社会の実現を目指す」ことをビジョンに掲げる公益財団法人日産財団によって、科学技術分野の未来を担う理系女子のタマゴとなる理科好き女子(リカジョ)の育成を目指し設立された賞です。日本の理系分野における女性進出の低迷を改善するため、未来に活躍するリカジョを育てるべく、女子小中高生を対象に理系分野における興味・関心の向上や能力の育成を目的とした活動を褒賞しています。



牛山

村上さん、プレゼン、お疲れ様でした。
準グランプリおめでとう、と言いたかったところだけど、残念ながら準グランプリ、ですね。

悔しかったねえ。
資料作成にご協力いただいた皆さんには、力及ばずの結果となってしまう、申し訳ないです。



村上

本当に惜しかった。
プレゼン原稿作成・当日の発表者だった村上さん、随行者の私、本田副会長、青木企画広報局長、佐藤前事務局長、水野元副会長の皆がプレゼン原稿に最後の最後まで手直しをしてくれていたしね。



牛山

各支部の皆さんのイベント開催に注ぐ思いを伝えたい一心で頑張ったんだけど、本当にごめんなさい！



村上

いやいや、十分頑張ったと思うよ。
ただ、今回プレゼン資料を皆で何度も何度も修正したせいで、その前に出した書類とつじつまが合っていなかったことに、受賞のあとで気付いたのはショックだったよね。



牛山

そうそう。プレゼン資料の最終目標は「インフラの造り手が男女比 50:50」と置いて書いたのに、事前書類には「理系分野のジェンダーバイスの改善」って書いていたの。ただ、一番欠けていたのは、開催したイベントによって、子どもたちがどのように育成されたのか、ここを具体的に示しきれていなかった部分かな。



村上



牛山

財団の理事から、この賞の趣旨はリカジョ育成によってイノベーションを起こすこと、財団設立の趣旨は「理系人材の育成」なので、財団の意義と趣旨をもう少し説明しておけばよかった、と言われたのよね。確かにこの視点での表現が欠けていたかもしれないね。

あとね、プレゼンのコマ送りで、ちょっとポインター押しただけで、一気にスライドが送られてしまって、ちょっと焦った。



村上



牛山

堂々と発表できてたよ。相当練習したのでは？ 練習を積んでいれば、当日ちょっとくらいトラブルがあっても動じずに対応できるんだなって実感したもん。

家で 6 回くらい繰り返して練習したかな。それを近くで聞いていた姉からは、「その説明では『土木』を知らん人には伝わらんのとちがうかな」って言われたのよ。
業界関係者じゃない第三者から、事前に見てもらって、評価を受けて、改善点を示してもらうことも必要だな、と思った。



村上

なるほど、確かにほかの業界の人に意見を聞くのは大切かもしれないね。
私が特に悔しかったのが、贈呈式後の懇親会で、選考委員の先生方から、「僕は女性の会を相当推したんだよ」とか「かなり惜しかったんだよ」といった話を聞いたこと。
それを聞いて、そこまで競ったのなら仕方ないかって、自分の気持ちを納得させて帰ってきたけど。



牛山

審査する側・される側、全て学校関係者の中、当会は異彩を放っていたと思う。ただ、あのストーリーで資料を作り、満足してしまっていた自分が、井の中の蛙だったことに気づいて愕然とした。



実はさ、あの日は全然寝付けなくて。寝つきは良い方だから、よっぽど悔しかったんだ、って気付いてびっくりしたわ。

ええ——！！ 私も。あまりの悔しさからか、ほとんど寝付けなくて(結局、数日間寝られなかった)。思っていた以上に、学校関係者の皆さんが「土木」や「ドボジョ」を知らないという状況で、「土木」のPRは、まだまだ続けていかないと、と改めて実感した1日でしたね。



そうだよね。今後のためにも、こういった賞に応募する際の注意点をお伝えしたいと思います。これは自戒の意味も込め、今回私たちが経験した反省点を踏まえて書いています。皆さまの今後の参考にしていたければ幸いです！

会にとっては、初めてのコンペだったけど、良い経験になったと思うよ。こういったことに参加することは土木のPRの1つになるので、ぜひ我々のアドバイスを参考に、いろいろなコンペに挑戦していただきたいと思います！



●応募時点の注意点

【応募書類は、コンセプトを確認して作りこむ】

今回の応募書類は、エントリーのためのフォーム、活動内容の紹介フォーム、当日のプレゼン原稿の3つがありましたが、これらの書類でほぼ選考は終わっていたようで、当日のプレゼン自体は競った時の補足の意味合いが大きかったようです。

当日のプレゼンの印象で結果が変わることもあり得るかとは思いますが、事前の応募書類をしっかりと作っていくことが大切だと思いました。また、各書類をコンセプトから外すことなく、きちんとつじつまが合うように作成していきましょう。

●プレゼン原稿作成での注意点

【募集团体の求める趣旨を理解し原稿を作る】

賞の趣旨は「リカジョ育成によってイノベーションを起こすこと」、財団設立の趣旨は「理系人材の育成」。今回、これらを深く理解せずに資料作成を進めてしまっていたように思います。

懇親会では、財団の理事から「財団側もその意義と趣旨をもう少し説明しておけばよかった」というお言葉を頂いたのですが、こちらでも調べればわかることでしたので、我々の落ち度でもあったなと思っています。

【相手が知りたいことは何かをよく考える】

先述したように、賞や財団の趣旨は理系女子の人材育成でした。よって、我々が行った活動やイベントによって、どう人材育成がされたか、という結果を求められていたのですが、詳しい数値や具体的な事例を入れることができていませんでした。この部分をプレゼン後の質疑応答で問われましたが、当日の口頭での回答だけではしっかりと伝えきることができず、やはり前もって資料に入れておくべきだったと思います。



●審査に関する注意点

【事前に選考者の構成を把握しておく】

今回の選考者は、すべて大学で教えている方でしたので、そちらに向けた説明を行えば良かったな、と思いました。

【競っていると、細かい部分を比較される】

当日の質疑応答で回答時間がやや長くなってしまったのですが、最終的にはこの点も比較されていたようでした。競っている際は、細かい部分も審査の心証を左右することがあるとおいた方がよいでしょう。

●発表に向けた注意点

【第三者からの評価を受ける】

応募書類もプレゼンも、同業者や同じ業界のメンバー同士では通じて、他業種、他分野では、理解されにくいと思った方がいいです。その前提に立ち、事前に業界関係者ではない第三者に評価を受け、改善点を示してもらうことも必要だと思いました。

【経験を積む】

このような賞などに挑戦する際は、経験も大切だと痛感しました。書類作成、伝わりやすい資料作り、選考者は何を重視するのか等、いくつか挑戦する中で参考にできる情報が増えるはずです。

●プレゼン当日の注意点

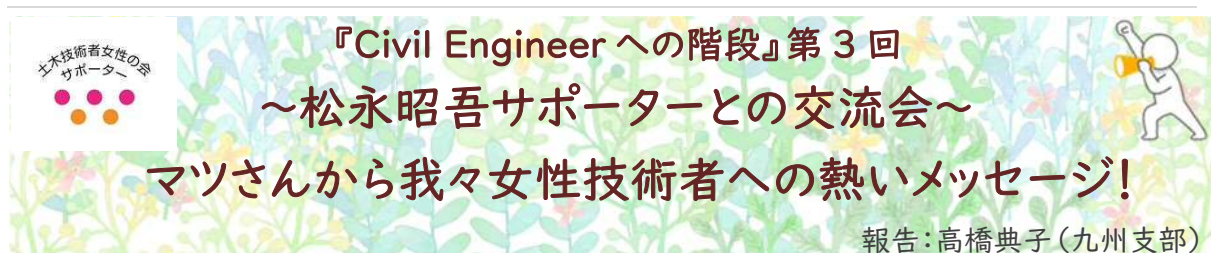
【時間は厳守する】

きちんと練習していたのですが、当日の発表は制限時間を超えてしまいました。超えた分は審査対象外です、と主催者からはっきり宣言されていたので、超過した分、減点されても仕方がないと思っていました。ただし、今回は超過していたチームが多かったため、時間超過に関しては不問となったとのことでした。この点は救われました。

【堂々と話す（少し失敗しても気にしない）】

今回、資料の投影時に小さなトラブルがあったのですが、発表者の村上さんは動揺することなく堂々と発表されていました。かなり練習を積んで臨んでいらしたとのこと、しっかりと準備をすれば現場で少々のトラブルがあっても動じることはないな、と実感しました。実際、コンテスト等では大なり小なり様々なトラブルがつきものといいます。慌てることなく対応できる心構えと、「これだけ準備したのだから大丈夫」という自信が必要だと感じました。





当会のサポーターである松永昭吾さんをお迎えし、管理職になることへの不安や管理職になったことと抱える悩みをもつ会員と共に、「管理職へのステップアップ」をテーマに語り合うオンライン（zoom）交流会を開催しました。情熱あふれるマツさんの熱いメッセージを皆様にもお届けします。



開催概要

■日時:

2023年12月2日(土) 14:00~15:40

■場所:オンライン (Zoom)

■主催:

(一社)土木技術者女性の会 企画広報局

■参加人数:正会員 17 名

(交流会参加者 6 名、視聴参加者 14 名)



講師紹介 松永昭吾さん(通称:マツさん)

国内外で災害調査や土木設計を行う株式会社インフラ・ラボの代表取締役。

阪神大震災や海外の地震災害復興、沖縄での橋梁設計など、豊富な経験を持つ。土木技術で世界をより良くしたいという情熱を持ち、大学、行政機関等において教授・講師を務めるかたわら、「土木の魅力発信」のためのイベント開催や広報活動や「仲間作り」として人材育成にも力を入れている。



参加者が抱える管理職への不安や悩み

◎仕事量増加や家事・育児との両立への不安

◎女性管理職としての自信の欠如、

ロールモデルの少なさ

◎個別相談や視野を広げる機会、

キャリアアップの後押し



マツさん講演

『女性こそ管理職に!』

多様性で日本を元気に!』

★ 世界におけるインフラ分野のリーダーは、女性が多い!

インフラは人々の生活に密着しており、多様なニーズに対応する必要があります。一方で、日本は「効率化」を追求するあまり、「画一化」した社会になってしまいました。

明治時代以降、効率性を重視した結果、男性中心で均質な価値観が良しとされてきました。しかし、その結果が、災害への脆弱性や幸福度の低下といった問題を生み出しています。

女性は、育児など生活に根ざした経験から、きめ細やかな視点や多様性を持っています。これからの日本に必要なのは、「多様性」です。女性ならではの視点を積極的に取り入れ、多様な価値観を融合することで、より安全で、持続可能で、人々が幸せを実感できる社会を実現でき



るはずです。

「土木技術者女性の会」のように、同じ思いを持つ仲間が集まり、声を上げ続けることが、変化を起こすための大きな力になります。

10年後、15年後の未来に向けて、私たちが、働きやすく、人々が幸せを感じられる日本を創っていきましょう！

✦ 土木は人の命を守る仕事！ 誇りを持って未来へ！

海外で働く中で、改めて気づかされたことがあります。それは、土木の仕事は、人の命を守ることに直結しているということ。

一見、地味な作業に見える歩道拡幅工事も、交通事故から命を守るための大切な仕事です。

道路改良や下水道整備によって、どれだけの人の命が救われているか、皆さんは知っていますか？ 私たちは、もっと仕事の「意義」を意識する必要があります！

「なぜ、この仕事をするのか？」

「どんな風に社会に役立つのか？」

その想いを共有することで、社員一人ひとりのモチベーションが上がり、業界全体の活性化に繋がります。

これからは、分業の壁を乗り越え、チームワークで仕事に取り組む時代です。「土木技術者女性の会」のような場は、異なる価値観を共有し、新しい道を切り拓くための貴重な機会になります。

若い世代には、ぜひ、「仕事の本質」を見つめ、誇りを持って働いてほしい！ そして、自分の幸せも追求しながら、未来の土木業界を創造していきましょう！

✦ 未来のために！ 柔軟な働き方で、土木業界を進化させよう！

これからは、性別や場所にこだわらず、誰もが能力を活かせる時代です。ベトナムで図面作成だってできる！ グローバルな働き方が当たり前になります。男性も女性も、それぞれの強みを活かすことが重要です。

例えば、女性は、子育て経験から得た集中力や段取り力が武器になることもあります。多様な働き方を認め、個々の能力を最大限に引き出すことが、人手不足の解消、そして生産性向上に繋がります。

企業は、利益だけを追求するのではなく、そこで働く人々の幸せも大切にすべきです。社員がイキイキと働ける環境こそが、持続可能な組織、ひいては社会全体の発展に繋がります。そのためには、私たち現役世代が、未来を見据えて行動を起こさなければなりません！

✦ 世界に学べ！ 多様性こそ日本の武器！

海外における土木業界は、日本ほど分業化されていません。「道路」なら道路に関わる全てを、多様な専門性を持つチームで担当します。驚くことに、現場監督は、必ずしも現場経験豊富な人になるわけではありません。むしろ、マネジメント能力やコミュニケーション能力に優れた人が多く、女性が活躍している例も多いです。

一方、現場作業は男性が中心となり、高いモチベーションと技能で仕事に取り組んでいます。そして、オフィスでは、女性たちが街づくりやインフラ整備の企画・提案を行い、ワークライフバランスを保ちながら活躍しています。先進国では、性別や年齢、立場に関係なく、多様な人々が意見を出し合い、より良い社会を築くために協力しています。

日本のリーダーシップは、「俺について来い！」になりがちですが、これからは「みんなを幸せに！」という意識が大切です。そのためにも、女性管理職を増やし、多様な価値観を取り入れる

ことが重要です。

建設は、ただ建物を作るのではなく、人々の生活を豊かにするための仕事です。この意識改革こそが、日本の土木業界を、そして社会全体を大きく変える力になると信じています。

時間短縮だけが働き方改革じゃない！

労働基準法改正や働き方改革。本当にそれで、みんな幸せになれるのか？僕は、常に部下に問いかけています。

なぜなら、人生の最終目標は、「すべての人が穏やかに幸せに一生を終えること」だと信じているからです。

時間短縮は、本当に幸せに繋がるのか？特に技術職は、経験こそが財産です。若い頃に様々な経験を積まなければ、「使えないオヤジ」を生み出すだけかもしれません。

僕は、部下にはこう伝えています。
「時間短縮で自由になった時間を、君はどう使うんだ？」
「資格取得や人脈形成、自己成長に時間を使っているか？」

日本では、「仕事」と「プライベート」は対立するものと考えられがちです。しかし、欧米では「ワークライフハーモニー」という考え方が主流です。仕事もプライベートも、どちらも充実させてこそ、本当の人生だと思いませんか？AIや技術革新が進む時代だからこそ、人間関係を築く力は重要性を増しています。時間の使い方、働き方を見直し、自分の人生を豊かにする「生き方改革」を始めましょう！



質疑応答

マツさんの熱い
想いが爆発！

Q1.管理職になって良かったことは？

A1.失敗しても怒られないことが増えた！

(責任をとるのも自分に！)



Q2.土木業界の仕事の魅力をもっと伝えるには？

A2.人々の生活を守るという大きな目標を共有すること！

Q3.若手に伝えたいことは？

A3.自分の仕事の先に、多くの人の命を救うという大きな目的がある！そして、社会貢献と個人の幸せは両立できる！若いうちにこそ、人脈形成や自己成長に積極的に投資しよう！

Q4.これからの働き方は？

A4.ワークライフバランスではなく、ワークライフハーモニー！仕事もプライベートも充実させる！

Q5.女性と男性の違いは？

A5.性別ではなく、個人の強みを活かす！

Q6.海外の働き方は？

A6.日本ほど分業化されておらず、チームワークや多様性を重視している！



まとめ

明るい未来に向けて、私たちが変えていく！

マツさんの講演は、女性管理職の必要性和、多様性を受け入れる社会の重要性を再認識させられる、熱意あふれる内容でした！

最初は緊張の面持ちだった参加されたみなさんの表情も、マツさんとの話が進むにつれて、みるみるうちにイキイキとしていく様子が画面越しからも見てとることができました。

(一社)土木技術者女性の会として、多様性の実現に向けて積極的に行動し、未来の世代に、より良い日本を繋いでいきたいと思う良い機会になりました。



The Society of
Women Civil Engineers

<編集後記>



思います。

マツさんのお言葉、とても励みになりますよね。多くの人にとり働きやすい職場づくりには、土木の場合 ICT などがカギになるのかな、と

☆福島香菜子（北海道支部）



北海道支部開催の総会・関連行事の様子がとても楽しそうだったので、いつか参加してみたいと思いました！北海道遠征楽しみ！

☆高橋典子（副編集長/九州支部）

「輪」への投稿・ご意見は「輪」編集委員へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は事務局まで、お願いします。

「輪」編集委員:rin@womencivilengineers.com

事務局:infoswce@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員】

藤代祥子（編集長/中部）/福島香菜子（北海道）

熊本好美（東日本）/原牧子（東日本）

松田めぐみ（西日本）/

高橋典子（副編集長/九州支部）

【事務局】

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷三丁目1番9号矢沢ビル4階

TEL 050-3738-4975

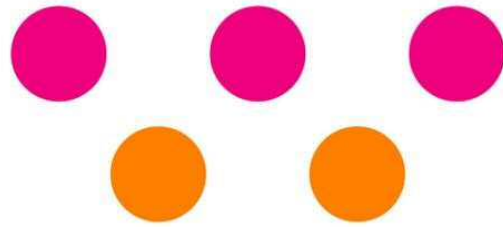
<https://www.womencivilengineers.com>

「輪」2024年度 秋号（第76号）

2025年 9月15日発行

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers



The Society of
Women Civil Engineers

一般社団法人 土木技術者女性の会
「輪」 2024 年度 秋号 (第 76 号)